

## 08 映画『めぐみへの誓い』（北朝鮮による拉致問題）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもとこがお届けします。

5

まだ13歳だった横田めぐみさんが、北朝鮮に拉致されてから今年で45年。めぐみさんを含め、日本政府が認定した拉致被害者は17人です。そのうち5人が帰国して以来、20年間まったく進展のない状況が続いています。

10

こうした中、被害者の救出を訴えるために、昨年2月、映画「めぐみへの誓い」が公開されました。舞台劇として2010年から上演されている「めぐみへの誓い 奪還」を映画化したものです。

15

総合プロデューサーの松村讓裕さんは、「この映画の目的は、拉致問題を風化させないためではありません。あくまでも被害者の奪還です」と語ります。

20

映画の製作資金は、寄付とクラウドファンディングで募り、5600人を超える支援者から7600万円ほど集まりました。すでに全国40カ所で上映され、現在はDVD、インターネット配信でも見られます。アメリカ、ドイツなど海外での上映も決まり、少しずつ広がっています。

25 脚本と監督を務めた野伏翔さんは、映画に込めた思いをこ  
う話しています。

30 【監督・野伏さん役】私が一番伝えたかったのは、家族の絆  
の尊さです。拉致によって、家族と会うことが奇跡になるな  
ら、絶対にあってはならない。人の夢や誇りを奪ってはい  
けないのです。映画では、めぐみさんやご家族の苦しみだけ  
ではなく、愛の深さも描きました。希望を込めて、人間が生  
き抜いていく意志の強さを表現しています。

35 (ナレーター) 政府が認定した拉致被害者の他にも、警察庁  
が発表している拉致の可能性を排除できない人は、およそ8  
70人いるといわれています。拉致問題という人権侵害をな  
くすためには、私たち国民が関心を持ち、諦めない姿勢を示  
すことが大事です。

40 映画の完成を心待ちにしていた、めぐみさんの父・滋さん  
は、公開の前に亡くなりました。家族に残された時間には、  
限りがあるのです。

45 映画を見た人たちからは、「何とかして助け出したい」とい  
う声がたくさん上がっています。この思いを大きく育て、拉致  
問題の解決につなげていきましょう。

(本文 869 字)